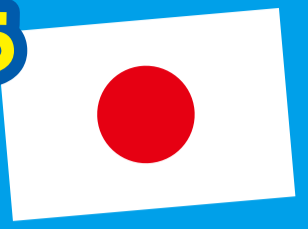


世界に羽ばたけ! 宗像の子どもたち ニュージーランドにホームステイしてきました



第21回宗像市少年少女海外派遣研修使節団



海外でのホームステイや学校交流を通して、国際的視野をもった小・中学生を育てることを目的とする市少年少女海外派遣研修使節団。今回は15人の団員が8月22日～同29日にニュージーランドに研修に行きました。5回の事前研修では、日本とニュージーランドについての学習や英会話研修、学校交流での歓迎式典の練習を通して団員の絆を深め、本研修では練習の成果を十分に発揮しました。



15人の団員がニュージーランドで貴重な体験をしてきました



日本との違いを知ったホームステイ

日本の気候とは逆で、ニュージーランドは冬。空港から外に出ると団員一同「寒い」と、さっそく南半球に来たことを実感していました。



気候が日本と正反対、もちろん長袖で過ごしました

ニュージーランドは多民族国家で、いろいろな文化があります。団員の大塚菜帆さん(小学6年生)は「ホストファミリーが、料理を手づかみで食べたのには驚いた」と、文化の違いを体感したようでした。岸本恵里奈さん(中学2年生)は「英語力が、まだまだだと分かりました。もっと勉強したい」、小田みゆきさん(中学2年生)は「言葉が違っても伝えようという気持ちがあれば表情やジェスチャーで伝わる」と、慣れない英語にも積極的に取り組むなど、大きな壁を乗り越え、団員15人は5泊6日のホームステイで、たくましく成長しました。



舌を出して、みんなで一緒にマオリ族のあいさつ

また、井上青空(そら)さん(中学1年生)は「優しいニュージーランドの仲間とずっと遊びたい。日本に帰りたくない」と話すなど、すっかり打ち解けました。

これから

日本ではなかなかできない、ニュージーランドならではの体験をしてきた団員は、9月15日の報告会で、日本との違いやニュージーランドでの経験を通して自分自身が変わったことなどを発表しました。久原瑞帆(みずほ)さん(中学2年生)は「ニュージーランドの子どものように、フレンドリーに誰とでも話ができて、自分の気持ちを伝えられるコミュニケーション能力を持ちたい」と話していました。この経験を生かして、学校や地域で活躍してほしいです。

マウントロスキル校との交流

ニュージーランドの現地交流校であるマウントロスキル校は、オークランド市のほぼ中心に位置し、比較的歴史が古い2年制の公立学校です。宗像市とは1999年に交流が始まり、15年の信頼関係があり、今回も親身になって受け入れてくれました。

歓迎式典では、同校の生徒がマオリ族の歌やダンスを披露してくれました。

団員は、ソーラン節、歌「明日という大空」、男子の応援団、女子のダンス、空手などを披露し、交流を深めました。徳田紗矢さん(中学2年生)は「学年も学校も異なる15人ですが、練習を重ねるうちに絆がより深まり、団員の思いを1つに、ダンスや歌を成功させることができました」と、うれしそうに話してくれました。



空手の説明も英語で



みんなでソーラン節や歌を披露

スポーツ交流では、同校での普段の体育の授業を体験。団員は、日本では経験したことのないホッケーを、大いに楽しんでいました。「ホッケーで負けて、マウントロスキル校の生徒に「おしい!」と英語で言われた時は、スポーツで人はつながる感じた」と南結愛(ゆめ)さん(中学1年生)は言います。また、放課後、同校の子どもたちがバスケットボールをしている中に、日本人一人で溶け込むように遊んでいた田中一輝(いつき)さん(中学2年)の姿から、小・中学生の柔軟な適応能力の高さに驚かされました。



マウントロスキル校の教頭先生が自ら作ってくれたサンドイッチは、とてもおいしかったです



初めて体験したホッケー

たくましく成長した姿を見せることができました



この研修会に参加させてくれた親への感謝を伝えた岩永侑樹(ゆうき)さん(小学6年生)